

	区分	6つの視点	整備の考え方(検討案)抜粋	第1回検討会での主な御意見	第2回検討会での御意見
地域共生社会を実現する ための総合的な福祉の 拠点 【基 本 プ ト】	場所(移転先候補)	①移転・更新(移転先候補)	【場所(移転候補地)】 ・総合福祉センターは、利用者の利便性をはじめ、安定的かつ継続的な福祉サービスの提供が不可欠 ・これまで調布駅近傍はもとより、市内における様々な民有地・公有地等について、移転候補としての可能性を模索してきた。 ・現行総合福祉センター機能に加えて、周辺福祉施設機能の集約・複合化に必要な用地や床面積を早期に確保していく必要があるため、令和元年11月に京王電鉄株式会社から市に対してまちづくりの提案のあった京王多摩川駅周辺地区における交通利便性の高い民間開発を有力地としている。	・総合福祉センターの移転に絶対反対という意見はなかったため、京王多摩川駅周辺への移転は、選択肢としてあり得ると合意ができた。 ・他の候補地の中では京王多摩川が一番良い。京王多摩川の現状として、人の行き来も少なく、生活の基盤となるお店も少なくなっているため、総合福祉センターの移転を機に、活気のあるまちになると期待している。	
	主要な機能等	②新たな総合福祉センターの機能充実等	【総合福祉センター基本機能の維持・向上】 ・各機能について、上下移動の少ない2フロアーに機能を集約し、現行機能の維持を基本として一部拡充も含め床面積を確保するとともに障害者等に配慮した3mの廊下幅員(現状2.5m)の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能を向上 【周辺福祉施設機能の集約・複合化】 ・休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約・複合化や高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関する機能の集約・複合化による総合福祉センター機能の充実・強化 【地域共生社会づくりの拠点にふさわしい将来を見据えた機能改善の検討】 ・相談室や集会室の充実など、様々な市民が利用できる施設として、地域の福祉拠点機能を強化	・移転をしたら、今の機能を維持することはもとより、プラスの機能を付け加えて、移転をして良かったと思っていただけるようにすべきである。 ・全ての機能を集約するのではなく、地域共生社会の理念のもと、エリアがあってそこで活動できるようランチを整備することも検討する必要がある。 ・誰もが利用できるような公共性の高い施設が入ると良い。	
		③災害対応	【浸水対応・福祉避難所に関する考え方】 ・浸水想定を踏まえ2階以上に総合福祉センター等機能を設置 ・風水害時における発災前から発災後の段階ごとの課題分析を踏まえ、発災前から発災後の総合福祉センター機能の確保、及び福祉避難所の確保など災害時の対応策を検討	・多摩川に近い地域であるため、心配な点もある。特に障害のある方が避難できる防災の拠点となる場所を検討してほしい。	
	京王多摩川駅周辺のまちづくり	④利便性の確保	【災害対応・ユニバーサルデザイン・利便性向上】 ・京王多摩川駅改札から最も至近距離にある棟への総合福祉センター機能の移転に加え、道路の段差解消など、まちづくり全体でユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮	・電車の乗り換えが大変な視覚障害者や車いすの方への移動手段の確保など、アクセシビリティ(交通の便、利用しやすさ等)が重要である。 ・京王多摩川駅については、エレベーターの台数やホームの形状の問題などにより、使い勝手が悪いと感じている。 ・調布駅から移転先の総合福祉センターまでシャトルバスを運行する必要があると思う。	
	京王多摩川駅周辺のまちづくり	⑤京王多摩川駅周辺のまちづくり	【民間開発事業】 ・京王多摩川駅周辺地区における交通利便性の高い民間開発を有力地として、引き続き、移転先候補の選定に向けて、関係者との協議・調整を行っていく。	・京王多摩川駅周辺への移転・更新に当たっては、移転先候補の民間開発事業者(京王電鉄株式会社)との折衝・交渉が重要である。	
		⑥調布駅周辺の福祉機能	【調布駅周辺の福祉機能に関する考え方】 ・交流・居場所機能や福祉機能等の一部について、調布駅周辺に確保することを検討	・移転に当たっては、調布駅前に総合福祉センターの機能の一部を残してほしい。 ・社会福祉協議会の出先機関とした意味合いも残してほしい。	